

# ～スペイン遊学の事など～

<弁護団の紹介コーナー第5回>

弁護士 佐川京子

私は、臼杵市の出身です。小柄で体力もなく、走るのも遅かったので、スポーツは苦手です。唯一できる運動は卓球です。そんな私ですが、なぜか作文はよく褒められ、将来は小説家になりたいなどと身の程知らずの夢をみている時期もありました。

私が弁護士になったのは1979年(昭和54年)なので、30年以上前のことになります。その間の2004年、長い間働いた自分へのご褒美に3年間スペインに遊学することにしました。なぜスペインかと言えば、世界中で最も多くの国がスペイン語を母語としているからです。計画では、スペイン語を自由に操るようになって人の役にたちたいと思ったからですが、それは実現できませんでした。語学の勉強は、若いときにしなければならないと痛感しました。ついでに言えば、学校の「優等生」であった私が、「劣等生」の気持ちを理解できるようになったという思わぬ収穫もありました(差別的な表現であることをお許しください)。

帰国した私は、半年くらいぶらぶらしていましたが、退屈のあまりまた弁護士に戻ることにしました。それから10年以上経過し最近の私は、仕事よりも楽しみに時間を



スペイン アルマグロのパラドール(旧修道院)にて

費やすことのほうが多くなりました(仕事が楽しみではなく、苦痛であるという意味ではありませんが)。最も時間を使うのは畑仕事です。自分でつくる野菜はとてもおいしく、周りの人たちにも食べてもらえてお付き合いが広がるなど趣味と実益を兼ねる最高の役割と思います。そのほかには映画をみること、シネマ5・シネマ5bisには度々かけています。また、観劇も好きです。司法修習生のころ前橋で、大分でいえば市民劇場のようなグループに加入して以来続けている趣味です。そんな状況なので原発弁護団では、せめて法廷には出頭し、「枯れ木も山の賑わい」としての役割を果たすつもりです。

## 地域交流会報告

2019年11月17日大分市コンパルホール

13:30~16:00

# 原発技術者から見た原発事故、大規模災害

講師 三上満寿男

中津三光村でブルーベリー栽培をしながら、元原発技術者の経験を生かして発信している三上さん。昨年11月17日に大分地区の交流会で講演して頂きました。

台風19号の災害で、南相馬市に災害ボランティアに行ったこと、飯館村にも行って来たということで、帰還困難区域が解除されているところもあるが、依然として放射能は残っている。セシウムは少なくなっても半減期ということでいつまでも残っている、子どもたちが甲状腺ガンで、薬を持たされて色々やっているが、内部被曝の実態が、もう少し年数が経ってみないとわからない状況。結局、原発というのは決して安くない、いつまでも放射能が残るので国を滅ぼす。

電力の恩恵の偏り…都会が恩恵を受け、過疎地に危険をおしつける。こんな不公平があってはいけない。そのツケ

として311福島の惨事があり、台風15、19号問題があると思うと指摘。送電線がなぎ倒されている風景を千葉で見えてきて、大きな発電所を作って長い距離を運ぶのではなく、小規模な発電施設を作って送電距離を縮めたらいいのでは。今や電気の“地産地消”ができる時代になってきた。



三上満寿男さん

趣味のパラグライダーを生かして、八面山から飛んだ航空映像も見せてくれました。ずっと上空は偏西風だけど、向い風で飛ぶ。この風は四国方面から。すなわち、放射能汚染はこちらに流れてくる可能性…何としても阻止しなければ。